サステナブルな社会を、サステナブルな働き方で

総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課調整係長

廣谷 菜月 HIROTANI Natsuki

平成 31年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電波部移動通信課
新世代移動通信システム推進室
令和 3年 5月 産休・育休
令和 4年 4月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課主査
令和 4年 7月 現職

現在の業務

私が今所属している電気通信技術システム課は、国民生活や社会経済活動に不可欠な電気通信サービスの安定的な提供のため、電気通信設備の安全・信頼性の確保に必要な制度づくりやその運用などを行う部署です。

その中で私は現在、課内の業務内容や職員の働き方などを調整する業務を担っています。通信技術は日に日に進歩していくため、検討しなければいけないこともどんどん増えていきます。通信インフラを維持していくということに行政という立場で携わる中で、日々の業務の重要性や責任も感じています。課内全体の業務を把握し全体調整を行いながら、有限の時間の中で課の職員が本当にやるべきことに集中して取り組めるような環境作りを心がけています。

ワークライフバランス

私生活では、一歳の息子がおり、育児に奮闘する毎日を過ごしております。私は、出産に伴い約１年間の休暇を取得しました。まだまだ経験不足の若手のうちに長期休暇を取ることに不安もありましたが、実際に周りの方のお話を伺ってみると、休暇を取得された先輩方が省内にも多く、また職場の周りの方々も休職に対して後ろ向きな反応は一切なく、ご自身の実経験も交えて色々なお話をしてくださりました。こういった温かい環境のおかげで、不安のない状態で妊娠・出産に臨むことができました。

復職後の現在は、周りの協力もあり、育児と業務の両立を通してワークライフバランスを保つことができています。

総務省を検討されている皆様へ

私は学生時代、通信という技術躍進めざましい分野において、将来を見据え社会を支えていく仕事に魅力を感じ、総務省に入省しました。「サステナブルな社会」という言葉が広く使われるようになって久しいですが、情報通信の分野は正にそういった社会作りに携われる、やりがいのある業務ばかりだと思います。

入省してみて一番ギャップを感じたのは働き方の部分でした。入省前は、業務に魅力を感じる一方で、激務に体力的についていけるのか心配もありましたが、実際には、組織としてもサステナブルな働き方が重視されていて、精神的にも体力的にも居心地よく働くことができています。

総務省の業務や働き方に少しでも興味を持っていただいた方は、実際に働く職員との交流を通して、より魅力をお伝えできたらと思いますので、説明会やインターン、官庁訪問などに、ぜひご参加いただけましたら嬉しいです。

技術が変革する新しい国際秩序と向き合う

外務省在オーストラリア日本国大使館
一等書記官

佐竹 紘彰 SATAKE Hiroaki

平成 23年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電波部電波政策課
平成 25年 7月 国土交通省航空局安全部運航安全課企画係長
平成 27年 8月 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課
新世代移動通信システム推進室国際係長
平成 29年 8月 横須賀市経済部ＹＲＰ研究開発推進担当課長
令和 元年 7月 総務省情報流通行政局情報通信政策課課長補佐
令和 元年 9月 併任 内閣官房デジタル市場競争本部事務局局員
令和 2年 8月 総務省情報流通行政局情報流通振興課情報活用支援室課長補佐
令和 3年 6月 現職

いま、私は、オーストラリアにある日本国大使館にて勤務し、電気通信やデジタル政策、経済安全保障などを担当しています。日本とオーストラリアは、「自由で開かれたインド太平洋」の価値観を共有する特別な戦略的パートナーであり、近年では日米豪印の連携による取組など、両国の協力関係はますます深化しています。

情報通信が社会経済のインフラとなり世界を変革する中、これらの技術は国際関係にも大きな影響を及ぼしています。もちろん、情報通信の「つなぐ力」により新たな国際連携・交流を生むといったポジティブな面もありますが、他方で、あらゆるものがつながっているが故に、遠隔地からのサイバー攻撃を可能とし、生活基盤であるインフラが脅かされたり、自国の意見形成に不当に介入され民主主義の根幹が脅かされたりするといった脅威も引き起こしました。

このような国際社会の「新たな課題」を前にして、日豪協力を「新たな次元」に引き上げることをお手伝いするのが、いまの私の仕事です。私はこれまで、インド太平洋地域における通信ネットワークの安全・信頼性やサイバーセキュリティの強靭性に関する日豪政府間対話の枠組みの構築に携わってきました。過去の業務から一貫していることは、技術が変革する社会の秩序を構想することです。今後、政府において、技術の素養を持つ皆さんが政府で活躍できるフィールドはますます広がっていくでしょう。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

米国での学びとこれから

カリフォルニア大学サンディエゴ校

山川 大輔 YAMAKAWA Daisuke

平成 27年 4月 総務省採用
同 情報通信国際戦略局技術政策課
平成 29年 7月 同 情報通信国際戦略局国際協力課
平成 29年 9月 同 国際戦略局国際協力課
平成 30年 4月 同 情報流通行政局放送技術課係長
令和 2年 8月 同 情報流通行政局地域通信振興課主査
令和 3年 7月 同 大臣官房企画課課長補佐
令和 4年 7月 現職

2015年に入省し、早くも８年が経過しました。これまで５回の異動を経験し、研究開発、放送、地域振興などの幅広い分野の政策立案に携わってきました。例えば、スマートシティの構築を支援する業務に携わった際、「どのような技術が社会では求められているのか」「どのようなサービスが普及すれば社会が便利になるのか」といった問いに対して、制度と技術の両面から考える日々は非常にやりがいに溢れていました。一方で、今の取組よりも効果的な支援策があるのではないかと悩む場面も多く、新たな視点や知見を得る必要性を感じたことから、慣れ親しんだ日本を離れて米国で公共政策を学ぶことを選択しました。

米国の大学院では世界中から集まった専門家や同級生と意見交換しつつ、これからの時代に求められる政策について議論を交わしています。例えば、効果的な政策を立案するための手法や行政運営の在り方について、事例研究や統計分析などを通して学んでいます。省庁の所掌や国の垣根を越えて大局的に政策の動向を考える毎日には新たな発見も多く、またバックグランドの異なる同級生の何気ない一言から得る気づきも少なくありません。

渡米後の留学生活では、霞が関での実務では得ることができない経験を積むことができ、自分自身を見直す非常に良い機会になりました。これらの経験を通じて、行政官として、人間として成長していこうと思います。このように、実務や留学など多くの成長の機会がありますので、興味のある方はぜひ総務省の扉を叩いてみてください。